

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
専門基礎分野 【人体の構造と機能】	解剖生理学総論		金馬 義平	○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	前期				
学習内容	人体の形態、構造と役割、機能を学び、看護学の基礎となる知識を学ぶ。人体の正常な構造と機能の理解がもとになり、病気の成り立ちや診断、治療、看護が行われることになる。このような医学、看護の基礎となる知識について学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	人体の正常な構造と機能及び生体の恒常性や特徴的な病理学的な変化について理解する。	○				
	2						
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	解剖生理学のための基礎知識	講義	金馬義平			
	2	解剖生理学のための基礎知識	講義	金馬義平			
	3	栄養の消化と吸収	講義	金馬義平			
	4	栄養の消化と吸収	講義	金馬義平			
	5	呼吸と血液のはたらき	講義	金馬義平			
	6	呼吸と血液のはたらき	講義	金馬義平			
	7	血液の循環とその調節	講義	金馬義平			
	8	血液の循環とその調節	講義	金馬義平			
	9	体液の調節と尿の生成	講義	金馬義平			
	10	内臓機能の調節	講義	金馬義平			
	11	内臓機能の調節	講義	金馬義平			
	12	情報の受容と処理	講義	金馬義平			
	13	情報の受容と処理	講義	金馬義平			
	14	身体機能の防御と適応	講義	金馬義平			
	15	生殖・発生と老化のしくみ	講義	金馬義平			
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							

授業時間外に必要な学修	今回の授業内容に関する予習課題がある。課題を行い、講義内容の理解がスムーズに進む。						
使用参考教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学（医学書院） 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進[1]病理学（医学書院）						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとりくみ状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2						
	到達目標3						
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由記述欄)							
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージその他	履修にあたっての留意点						

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
専門基礎分野 【人体の構造と機能】	栄養学(生化学含む)		藤井康弘		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	前期				
学習内容	食物がどのように消化・吸収され、体内でどのように代謝されるかを学び、栄養状態の正常と異常を理解し、看護がはたす役割を学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	人体に必要な栄養素を消化吸収し必要なものを合成する、体内で行われる物質の動きを理解する。	○				
	2						
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	人体と栄養生化学	講義	藤井康弘			
	2	食物と栄養	講義	藤井康弘			
	3	糖質の栄養生化学	講義	藤井康弘			
	4	脂質の栄養生化学①	講義	藤井康弘			
	5	脂質の栄養生化学②	講義	藤井康弘			
	6	タンパク質の栄養生化学①	講義	藤井康弘			
	7	タンパク質の栄養生化学②エネルギーの栄養生化学	講義	藤井康弘			
	8	エネルギーの栄養生化学	講義	藤井康弘			
	9	酵素の栄養生化学	講義	藤井康弘			
	10	ビタミン・無機質の栄養生化学	講義	藤井康弘			
	11	遺伝子の生化学	講義	藤井康弘			
	12	食事摂取基準①	講義	藤井康弘			
	13	食事摂取基準②	講義	藤井康弘			
	14	成長・生活と栄養	講義	藤井康弘			
	15	栄養療法	講義	藤井康弘			
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修							

<p>使用教科書 参考教科書</p>	<p>新体系 看護学全書 人体の構造と機能② 栄養生化学(メヂカルフレンド社) オールガイド食品成分表2019(実教出版)</p>						
<p>成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業への取り組み状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
	<p>到達目標1</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標2</p>						
	<p>到達目標3</p>						
	<p>到達目標4</p>						
	<p>到達目標5</p>						
<p>(自由記述欄 評価方法)</p>							
<p>成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p>履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他</p>							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	生体防御機能 (微生物学と感染)		緒方 喜久代		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	30	1	前期				
学習内容	微生物の基礎的知識や感染症の原因となる微生物の特徴を学ぶ。病原微生物のによる感染とその防御・治療処置と対応を学び予防的行動を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	微生物の特徴を知り、感染症のメカニズムを理解する	○				
	2	感染とその防御・治療処置を理解する。	○				
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	微生物学の基礎(1)	講義		緒方 喜久代		
	2	微生物学の基礎(2)	講義		緒方 喜久代		
	3	微生物と感染(総論)	講義		緒方 喜久代		
	4	微生物と感染(細菌)	講義		緒方 喜久代		
	5	微生物と感染(細菌)	講義		緒方 喜久代		
	6	微生物と感染(リッケチア・クラミジア・原虫・真菌)	講義		緒方 喜久代		
	7	微生物と感染(ウイルス)	講義		緒方 喜久代		
	8	微生物と感染(ウイルス)	講義		緒方 喜久代		
	9	新興再興感染症	講義		緒方 喜久代		
	10	新興再興感染症	講義		緒方 喜久代		
	11	感染症の診断と治療	講義		緒方 喜久代		
	12	感染と感染防御(滅菌・消毒)	講義		緒方 喜久代		
	13	感染と感染防御(予防接種)	講義		緒方 喜久代		
	14	感染と感染防御(まとめ)	講義		緒方 喜久代		
	15	全体のまとめ	講義		緒方 喜久代		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修							

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">使用参考教科書</p>	<p>系統看護学講座 疾病の成り立ちと回復促進[4]微生物学 医学書院  系統看護学講座 成人看護[11]アレルギー膠原病感染症 医学書院</p>						
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業へのとり組み状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">到達目標1</p>	<p style="text-align: center;">○</p>						
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">到達目標2</p>	<p style="text-align: center;">○</p>						
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">到達目標3</p>							
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">到達目標4</p>							
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">到達目標5</p>							
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">(自由記述欄)</p>							
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他</p>							

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
<b>専門基礎分野</b> 【疾病の成り立ちと回復の過程】	<b>生命の誕生と排泄機能</b> (女性生殖器)  (腎・泌尿器系)		西田 正和 他	○			
			藤富 豊	○			
			河野 香織	○			
			有馬 誠	○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	前期				
学習内容	女性生殖器の構造と機能及び生命の誕生の成り立ちについて学ぶ。 また、腎泌尿器系を含め病態・検査・治療処置を理解する。 (生命の誕生 女性生殖器の構造と機能 腎泌尿器系の構造と機能 疾患の病態・検査・治療処置)						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	生命の誕生の仕組みを理解する	○				
	2	女性生殖器の構造と機能を理解する	○				
	3	女性生殖器の疾患を理解する	○				
	4	腎・泌尿器系の構造と機能を理解する	○				
	5	腎泌尿器系の疾患と検査・処置を理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法	備考 (講師名)			
	1	女性生殖器の構造と機能・症状とその病態生理・検査と治療	講義	西田正和			
	2	疾患の理解(性分化疾患・臓器別疾患:外陰部)	講義	佐藤新平			
	3	疾患の理解(臓器別疾患:膣・子宮)	講義	大川彦宏			
	4	疾患の理解(臓器別疾患:卵管・卵巣・骨盤内炎症性疾患)	講義	平川東望子			
	5	疾患の理解(臓器別疾患:乳腺の炎症性疾患) (機能的疾患:月経異常・更年期障害・不妊症・不育症・感染症)	講義	竹林兼利			
	6	疾患の理解(乳がんの発生と診断)	講義	藤富豊			
	7	疾患の理解(乳がんの治療・臨床心理的サポート)	講義	藤富豊			
	8	腎泌尿器の構造と機能・症状とその病態	講義	河野香織			
	9	検査と治療・処置	講義	河野香織			
	10	疾患の理解	講義	河野香織			
	11	まとめ(国家試験問題を用いて)	講義	河野香織			
	12	腎臓病について	講義	有馬誠			
	13	検査・腎不全	講義	有馬誠			
	14	腎炎	講義	有馬誠			
	15	腎代替え療法	講義	有馬誠			
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必修							

使用参考教科書							
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとりくみ状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述欄)	女性生殖器:筆記試験100点 腎・泌尿器:筆記試験100点 <input type="checkbox"/> 平均点を最終評価とする						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ その他	履修にあたっての留意点						



分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	生命維持活動 I (呼吸器系・循環器系)		岸 健志 直野 茂		○ ○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019 年入学生		
1	30	1	前期				
学習内容	呼吸器系・循環器系の構造と機能及び健康障害の病態・検査・治療処置を理解する。また、呼吸器系の病態と循環器系の病態の関連性を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	呼吸器系の構造と機能・疾患の病態と検査・治療処置を理解する。	○				
	2	循環器系の構造と機能・疾患の病態と検査・治療処置を理解する。	○				
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	呼吸器系の構造と生理	講義		岸 健志		
	2	呼吸器系の構造と生理	講義		岸 健志		
	3	呼吸器系の構造と生理	講義		岸 健志		
	4	呼吸器疾患の治療	講義		岸 健志		
	5	呼吸器疾患各論①	講義		岸 健志		
	6	呼吸器疾患各論②	講義		岸 健志		
	7	呼吸器疾患各論③	講義		岸 健志		
	8	心臓の構造と機能	講義		直野 茂		
	9	診察と診断・検査と治療	講義		直野 茂		
	10	虚血性心疾患	講義		直野 茂		
	11	心不全・血圧異常・不整脈	講義		直野 茂		
	12	心不全・血圧異常・不整脈	講義		直野 茂		
	13	心不全・血圧異常・不整脈	講義		直野 茂		
	14	弁膜症・心筋症・心臓疾患・先天性心疾患	講義		直野 茂		
	15	動脈疾患・静脈疾患	講義		直野 茂		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修	系統看護学講座 成人看護学[2]呼吸器 医学書院 系統看護学講座 成人看護学[3]循環器 医学書院						

<p>使用参考教科書</p>	<p>系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② 医学書院          系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成員看護学③ 医学書院</p>						
<p>成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業への取り組み状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
	<p>到達目標1</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標2</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標3</p>						
	<p>到達目標4</p>						
	<p>到達目標5</p>						
<p>(自由記述欄)</p>	<p>呼吸器系:筆記試験100点          循環器系:筆記試験100点          平均点を最終評価とする</p>						
<p>成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p>履修に当たっての留意点          学生へのメッセージ          その他</p>							

分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
専門分野Ⅱ 【疾病の成り立ちと回復の過程】	生命維持活動Ⅱ (脳神経系・血液造血器系)	濱崎清利 幸野和洋	○ ○				
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	後期				
学習内容	脳神経系及び血液造血器系の構造と機能及び健康障害の病態・検査・治療処置を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	脳神経系の構造と機能・疾患の病態と検査・治療処置を理解する。	○				○
	2	血液造血器系の構造と機能・疾患の病態と検査・治療処置を理解する。	○				○
	3						
	4						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	脳神経系総論	講義		濱崎清利		
	2	脳神経系解剖	講義		濱崎清利		
	3	症状とその病態生理①	講義		濱崎清利		
	4	症状とその病態生理②	講義		濱崎清利		
	5	検査診断と治療処置	講義		濱崎清利		
	6	疾患の理解	講義		濱崎清利		
	7	疾患の理解	講義		濱崎清利		
	8	疾患の理解	講義		濱崎清利		
	9	血液の生理と造血	講義		幸野和洋		
	10	検査診断と病態生理	講義		幸野和洋		
	11	疾患と治療の理解	講義		幸野和洋		
	12	疾患と治療の理解	講義		幸野和洋		
	13	疾患と治療の理解	講義		幸野和洋		
	14	疾患と治療の理解	講義		幸野和洋		
	15	疾患と治療の理解	講義		幸野和洋		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修							

<p>使用参考教科書</p>	<p>系統看護学講座 成人看護学[7]脳・神経 医学書院          系統看護学講座 成人看護学[4]血液・造血器</p>						
<p>成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業へのとり組み状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
	<p>到達目標1</p>	<p>○</p>				<p>○</p>	
	<p>到達目標2</p>	<p>○</p>				<p>○</p>	
	<p>到達目標3</p>						
	<p>到達目標4</p>						
	<p>到達目標5</p>						
<p>(自由記述欄) 評価方法</p>	<p>脳神経系:筆記試験100点          血液造血器系:筆記試験100点          平均点を最終評価とする</p>						
<p>成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p>履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他</p>							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	生命維持活動Ⅲ (消化器・代謝・免疫疾患系) (免疫疾患・アレルギー疾患)		藤富 豊 木本 泰孝		○ ○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	30	1	後期				
学習内容	消化器代謝系の構造と機能及び健康障害の病態・検査・治療処置を理解する。生体が疾病に対する抵抗のメカニズムを理解し、生態を守るメカニズムを理解し、生態を守る抗体抗原の働きを理解する。免疫の病的反応により発症する疾患を知り、病態・検査・治療処置を理解する内容とする。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	消化器代謝系の構造と機能を基盤にし、疾患と検査・治療を理解する	○				
	2	内分泌・代謝器官の構造と機能を基盤にし、疾患と検査・治療を理解する	○				
	3	内分泌・代謝器官の構造と機能を基盤に、疾患と検査・治療を理解する	○				
	4	内分泌・代謝器系の疾患と検査・治療を理解する	○				
	5	免疫のしくみとアレルギーのしくみを基盤に、免疫・アレルギー疾患及び膠原病(自己免疫疾患)を理解する	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考(講師名)		
	1	消化管の構造と機能(食道・胃・十二指腸・小腸・大腸・直腸・肛門・肝臓・胆管系)	講義		藤富 豊		
	2	消化器系の症状(嘔下霜害・おくび・胸やけ・吐き気・嘔吐・腹痛・下血・便秘・腹部膨満・腹水・食欲不振・黄疸・肝性脳症)	講義		藤富 豊		
	3	消化器系の検査(糞便検査・肝機能検査・膵外分泌機能・超音波検査・内視鏡検査・肝生検・放射線検査・CT・MRI・PET)	講義		藤富 豊		
	4	消化器系の治療(薬物療法・食事療法・手術療法・放射線療法)	講義		藤富 豊		
	5	消化器系疾患(食道の疾患・胃十二指腸疾患)	講義		藤富 豊		
	6	消化器系疾患(ヘルニア・イレウス・腸内寄生虫疾患・消化器憩室・腸管ポリープ及びポリポース・大腸がん・肛門疾患)	講義		藤富 豊		
	7	消化器系疾患(肝炎・肝硬変症・門脈圧亢進症・肝不全・肝がん・胆石症・膵炎・膵臓がん)	講義		藤富 豊		
	8	内分泌器官と機能(視床下部・甲状腺・副甲状腺・副腎・性腺・膵・消化管)	講義		藤富 豊		
	9	内分泌疾患(視床下部一下垂体前葉系疾患、視床下部一下垂体後葉系疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、生鮮疾患、内分泌疾患の救急治療)	講義		藤富 豊		
10	代謝疾患(糖尿病・脂質異常症・肥満症とメタボリックシンドローム)	講義		藤富 豊			

	11	免疫とは	講義	木本 泰孝			
	12	膠原病(自己免疫疾患とその機序, 症状とその病態, 検査と治療)	講義	木本 泰孝			
	13	膠原病(関節リウマチ・全身性エリテマトーデス・強皮症・皮膚筋炎・シェーグレン症候群)	講義	木本 泰孝			
	14	膠原病(・ベーチェット病・血管炎症候群・リウマチ性多発筋痛症・成人発症スティル病)	講義	木本 泰孝			
	15	アレルギーのしくみと検査・治療 アレルギー症状と疾患(気管支喘息・アレルギー性鼻炎・アトピー性皮膚炎・薬物アレルギー・アナフィラキシー・蕁麻疹・接触皮膚炎・食物アレルギー)	講義	木本 泰孝			
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
	23						
授業時間外に必要な学修							
使用参考教科書	系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 内分泌・代謝 成人看護学⑥ 医学書院 系統看護学講座 専門Ⅱ アレルギー 膠原病 感染症 成人看護学⑪ 医学書院						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
(自由記述欄)	消化器・内分泌・代謝系:100点の筆記試験 免疫・アレルギー・膠原病疾患:100点の筆記試験 平均値を成績評価とする						
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	生体機能と維持 (骨格・筋系)		山口修		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	15	1	後期				
学習内容	骨格筋系健康障害の病態・検査・治療処置を理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	骨格筋系の構造と機能を理解する。	○				○
	2	骨格筋系疾患の病態・検査・治療処置を理解する。	○				○
	3						
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	運動器の構造と機能	講義		山口修		
	2	運動器の構造と機能	講義		山口修		
	3	症状と病態生理	講義		山口修		
	4	症状と病態生理	講義		山口修		
	5	疾患の理解	講義		山口修		
	6	疾患の理解	講義		山口修		
	7	疾患の理解	講義		山口修		
	8	疾患の理解	講義		山口修		
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修							

使用 参考 教科 書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 運動器 成人看護10						
成績 評価 の 方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり くみ状況	6.その他 (備考)
	到達目標1	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
	到達目標2	<input type="radio"/>				<input type="radio"/>	
	到達目標3						
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由 記述 欄) 評価 方法							
成績 評価 の 基 準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履 修 に あ た っ て の 留 意 点 そ の 他 の メ ッ セ ー ジ							



分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	感覚と認識 (耳鼻咽喉) (皮膚) (眼) (歯・口腔)	川本 洋 浦田 保志 今泉 雅資 生野 太一郎, 原徳美	○ ○ ○ ○				
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	後期				
学習内容	耳鼻咽喉・皮膚・眼・歯系の健康障害の病態・検査・治療処置を理解する。 高齢化社会の中で加齢に伴う生体の変化の理解を重視し、老年看護学の基礎知識として学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	感覚器系の構造と機能を理解する。	○				
	2	感覚器系疾患の病態・検査・治療処置を理解する。	○				
	3	加齢に伴う変化とケアを理解する。					
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	耳鼻咽喉科総論(耳鼻咽喉・頸部の構造と機能)	講義		川本 洋		
	2	耳鼻咽喉科各論(疾患,検査,治療)	講義		川本 洋		
	3	課題レポート(摂食と嚥下)	講義		川本 洋		
	4	皮膚科総論(皮膚の構造,様々な症状の対処法)	講義		浦田 保志		
	5	皮膚科各論(強皮症,全身性エリトマトーデス,皮膚筋炎等)	講義		浦田 保志		
	6	皮膚科各論(熱傷,白癬,褥瘡等)	講義		浦田 保志		
	7	眼の構造と機能,症状とその病態生理	講義		今泉 雅資		
	8	検査と治療・処置	講義		今泉 雅資		
	9	眼科疾患(白内障,緑内障,斜視,眼筋麻痺)	講義		今泉 雅資		
	10	眼科疾患(角結膜疾患,ぶどう膜,網膜疾患)	講義		今泉 雅資		
	11	歯・口腔の構造と機能	講義		生野 太一郎		
	12	歯・口腔の構造と機能	講義		生野 太一郎		
	13	歯・口腔の構造と機能	講義		生野 太一郎		
	14	歯・口腔の構造と機能	講義		生野 太一郎		
	15	口腔ケア	演習		原 徳美		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修							

<p>使用教科書 参考教科書</p>	<p>・系統看護学講座 専門Ⅱ 耳鼻咽喉 成人看護学⑭ 医学書院          ・系統看護学講座 専門Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ 医学書院          ・系統看護学講座 専門Ⅱ 眼 成人看護学⑬ 医学書院          ・系統看護学講座 専門Ⅱ 歯・口腔 成人看護学⑮ 医学書院</p>						
<p>成績評価の方法</p>	<p>到達目標ごとの評価方法</p>	<p>1.終講試験</p>	<p>2.小テスト</p>	<p>3.発表</p>	<p>4.課題・レポート</p>	<p>5.授業への取り組み状況</p>	<p>6.その他(備考)</p>
	<p>到達目標 1</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標 2</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標 3</p>	<p>○</p>					
	<p>到達目標 4</p>						
	<p>到達目標 5</p>						
<p>(自由記述欄) 評価方法</p>	<p>耳鼻咽喉 100          皮膚 100          眼 100          歯・口腔 100 平均値を評価点とする</p>						
<p>成績評価の基準</p>	<p>・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。</p>						
<p>履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他</p>							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	薬理学		藤岡 孝志		○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	30	1	前期				
学習内容	薬物の作用機序・副作用について基礎的な知識を学び、人体に及ぼす影響と病態と関連づけて理解する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
到達目標	1	薬物や薬理作用に関する基礎的知識を理解する。	○				
	2	薬物の適用にかかわる実践的知識を理解する。	○				
	3	薬物治療における看護師の役割を理解する。	○				
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	薬理学総論(識別番号検索,簡易懸濁法,ジェネリック&バイオシミュレーション)	講義		藤岡 孝志		
	2	法律,管理,新薬開発,薬物動態学の概説	講義		藤岡 孝志		
	3	薬物動態学各論(吸収,分布,代謝,排泄)	講義		藤岡 孝志		
	4	動態パラメータ,相互作用,神経系概論	講義		藤岡 孝志		
	5	末梢神経系薬	講義		藤岡 孝志		
	6	中枢神経系薬(麻酔,催眠,不安薬,抗精神病薬,パーキンソン,躁うつ)	講義		藤岡 孝志		
	7	中枢神経系薬(てんかん,麻薬) 違法薬物,抗炎症薬(NSAIDs)	講義		藤岡 孝志		
	8	抗炎症薬(ステロイド,リウマチ,痛風,高尿酸血症)	講義		藤岡 孝志		
	9	抗アレルギー薬,免疫治療薬,呼吸器系に作用する薬(喘息)	講義		藤岡 孝志		
	10	呼吸器系・消化器系に作用する薬(鎮咳,消化性潰瘍,制吐,下剤,止痢)	講義		藤岡 孝志		
	11	感染症治療薬	講義		藤岡 孝志		
	12	抗がん薬	講義		藤岡 孝志		
	13	循環器系作用薬(高血圧,狭心症,心不全,不整脈,脂質異常症)	講義		藤岡 孝志		
	14	循環器系作用薬(血液・凝固系) 物質代謝作用薬(糖尿病)	講義		藤岡 孝志		
	15	物質代謝作用薬(甲状腺,骨,ビタミン)皮膚科-眼科用薬,漢方薬 輸液・輸血	講義		藤岡 孝志		
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							

授業時間外に必要な学修							
使用教科書参考書	・系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③ 医学書院 ・治療薬ハンドブック 2018 薬剤選択と処方のポイント じほう						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとり組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由記述欄)							
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
学生へのメッセージ <small>履修にあたっての留意点</small>							

分野	科目名		担当教員	実務経験の有無			
				有	無		
専門基礎分野 【疾病の成り立ちと回復の過程】	看護物理学 (看護物理学) (リハビリテーション看護)		後藤 善友 脇屋 裕文	○	○		
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
1	30	1	前期				
学習内容	医療や人体に関連した物理現象を明らかにし、物理現象を人間工学的視点で改善・対処できる基礎的知識を学ぶ。また、基礎的知識をもとに臨床実習で活用する。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	人体や医療に関連する物理現象と日常身近な物理現象について理解する。	○				
	2	疾患、傷害、加齢によりリハビリテーションが必要な対象とその目的を理解する。	○				
	3	疾患、傷害、加齢によりリハビリテーションが必要な対象の身体機能評価方法を学び、必要な援助方法を理解する。	○				
	4						
	5						
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	重いものを持つにはどうしたらよいか	講義		後藤 善友		
	2	看護ボディメカニクス	講義		後藤 善友		
	3	身近な圧力	講義		後藤 善友		
	4	呼吸器と吸引の物理	講義		後藤 善友		
	5	チェストドレーンバッグとサイフォンの原理	講義		後藤 善友		
	6	点滴静脈内注射の物理	講義		後藤 善友		
	7	循環器の物理	講義		後藤 善友		
	8	リハビリテーション概論	講義		脇屋 裕文		
	9	運動器系の障害とリハビリテーション	講義		脇屋 裕文		
	10	脳血管障害のリハビリテーション	講義		脇屋 裕文		
	11	脳血管障害、パーキンソン病のリハビリテーション	講義		脇屋 裕文		
	12	脊髄損傷のリハビリテーション 呼吸器系の障害のリハビリテーション	講義		脇屋 裕文		
	13	呼吸器系疾患、心疾患のリハビリテーション・介助法について	講義		脇屋 裕文		
	14	介助法の実際について(ベッド、車椅子、杖、階段等)	演習		脇屋 裕文		
15	離床について まとめ	演習		脇屋 裕文			
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							

授業時間外に必要な 学修							
使用参考教科書	・看護学生のための物理学 第5版 医学書院 ・系統看護学講座別巻 リハビリテーション看護 医学書院						
成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業への取り組み状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4						
	到達目標5						
(自由記述欄)							
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無		
					有	無	
専門基礎分野	公衆衛生学		明石秀伸			○	
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生		
1	15	2	前期				
学習内容	健康についての考え方や生活習慣や環境が健康に及ぼす影響等健康問題の現状・現在国が進めている健康づくり政策や具体的な保健活動について学ぶ						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	公衆衛生の概念を理解する	○				○
	2	環境と健康、生活とのつながりを知り環境問題とその対策として行政としての取り組みを理解する	○				○
	3	我が国の感染予防体制の概要を知り、医療職を目指す者として、自らが感染の媒体とならないことの重要性を認識する	○				○
	4	国際保健活動について知る	○				○
	5	地域における公衆衛生の実践を知る	○				○
授業計画	No.	授業内容			授業方法	備考 (講師名)	
	1	公衆衛生の理解			講義	明石秀伸	
	2	環境と公衆衛生			講義	明石秀伸	
	3	公衆衛生と国際化			講義	明石秀伸	
	4	地域・学校保健			講義	明石秀伸	
	5	労働衛生			講義	明石秀伸	
	6	感染症			講義	明石秀伸	
	7	日本の社会保障			講義	明石秀伸	
	8	人口と公衆衛生			講義	明石秀伸	
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
	15						
	16						
	17						
	18						
	19						
	20						
	21						
	22						
23							
授業時間外に必要な学修							

使用 参考 教科 書	系統看護学講座 専門基礎 公衆衛生 健康支援と社会保障制度② 医学書院 国民衛生の動向						
成績 評価 の 方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのと りくみ状況	6.その他 (備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
評価 方法 (自由 記述 欄)							
成績 評価 の 基準	・学習の到達度に応じて、優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修 にあ たっ ての 留意 点 その 他 メッ セー ジ							



分野	科目名	担当教員	実務経験の有無				
			有	無			
専門基礎分野	社会福祉	足立 圭司		○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期	2019年入学生			
2	30	1	後期				
学習内容	生活者が健康な生活を確保するために社会保障制度として用意された法律やサービスについての基礎知識を学ぶ。さらに、保健・福祉・医療の連携の必要性や看護師の役割を学ぶ。						
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度
	1	社会保障制度と社会福祉の法制度を理解する	○				
	2	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向を知る	○				
	3	医療保障制度について理解する	○				
	4	介護保障制度について理解する	○				
	5	所得補償制度のしくみを理解する	○				
	6	公的扶助制度を理解する	○				
	7	社会福祉の分野のサービスを理解する	○				
	8	社会福祉実践と医療看護・社会福祉の歴史	○				
授業計画	No.	授業内容	授業方法		備考 (講師名)		
	1	社会保障制度	講義		足立圭司		
	2	社会福祉の法制度	講義		足立圭司		
	3	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向①	講義		足立圭司		
	4	現代社会の変化と社会保障・社会福祉の動向②	講義		足立圭司		
	5	医療保障制度	講義		足立圭司		
	6	介護保障制度①	講義		足立圭司		
	7	介護保障制度②	講義		足立圭司		
	8	所得補償制度のしくみ	講義		足立圭司		
	9	年金保険制度	講義		足立圭司		
	10	所得補償	講義		足立圭司		
	11	公的扶助制度	講義		足立圭司		
	12	公的扶助制度	講義		足立圭司		
	13	社会福祉の分野とサービス①	講義		足立圭司		
	14	社会福祉の分野とサービス②	講義		足立圭司		
	15	社会福祉実践と医療看護	講義		足立圭司		
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
授業時間外に必要な学修							
使用参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度③ 医学書院 福祉省六法 国民衛生の動向						

成績評価の方法	到達目標ごとの評価方法	1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとりくみ状況	6.その他(備考)
	到達目標1	○					
	到達目標2	○					
	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
	到達目標6	○					
	到達目標7	○					
	到達目標8	○					
(自由記述欄)							
成績評価の基準	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
履修にあたっての留意点 学生へのメッセージ その他							

分野	科目名		担当教員		実務経験の有無			
					有	無		
専門基礎分野	関係法規		末松裕子		○			
科目単位数	時間	対象学年	開講時期		2019年入学生			
1	15	2	前期					
学習内容	保健師助産師看護師法を基に、看護業務の法的根拠を知る。また、医療従事者としてほかの関連法規を正しく理解する。							
到達目標	No.	到達目標	知識・理解	思考・判断	技術・表現	意欲・関心	態度	
	1	人間の健康支援のための法律を理解する	○					
	2	医療の提供に関連する法律を理解する	○					
	3	疾病予防と健康増進に関連する法律を理解する	○					
	4	母子に関連する法律を理解する	○					
	5	高齢者に関連する法律を理解する	○					
	6	社会福祉及び及び障害者に関連する法律	○					
	7	医療に関連する法律を理解する	○					
	8	労働に関連する法律を理解する	○					
授業計画	No.	授業内容			授業方法	備考 (講師名)		
	1	健康支援と稊律			講義	末松裕子		
	2	医療の提供に関連する法律・医療保険に関連する法律			講義	末松裕子		
	3	疾病予防,健康増進に関連する法律			講義	末松裕子		
	4	母子に関連する法律			講義	末松裕子		
	5	高齢者に関連する法律・社会福祉及び障害者に関連する法律			講義	末松裕子		
	6	医薬品・医療機器・食品などに関連する法律			講義	末松裕子		
	7	労働に関連する法律			講義	末松裕子		
8	教育に関連する法律・環境・生活衛生に関連する法律			講義	末松裕子			
授業時間外に必要な学修								
使用教科書	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度④ 関係法規 メヂカルフレンド社 看護六法 国民衛生の動向							
成	到達目標ごとの評価方法		1.終講試験	2.小テスト	3.発表	4.課題・レポート	5.授業へのとりくみ状況	6.その他(備考)
	到達目標1		○					
	到達目標2		○					

績評価の方法	到達目標3	○					
	到達目標4	○					
	到達目標5	○					
	到達目標6	○					
	到達目標7	○					
	到達目標8	○					
(自由記述欄) <small>評価方法</small>							
<small>成績評価の基準</small>	・学習の到達度に応じて、優(100～80点)、良(79～70点)、可(69～60点)、不可(59点以下)で評価する。						
<small>学生へのメッセージ その他</small>	<small>履修にあたっての留意点</small>						